

みんなで守ろう地球の未来、一人ひとりが主役です。



エコアクション21<sup>®</sup>

認証・登録番号

0000672



エコアクション21

エコアクション21<sup>®</sup>

## 2023年度 環境経営レポート



株式会社 新潟マテリアル

(対象期間：2023年4月～2024年3月)

作成日：2024年5月7日

改訂日：2025年4月14日

## 《 目 次 》

目次・・・2

1. 事業者活動の概要・・・3

2. 実施体制・・・4

3. 環境経営方針・・・6

4. 環境経営目標・・・7

5. 主な環境経営計画の取組結果・・・8

6. 環境経営目標の実績・・・10

7. 環境経営計画の取組結果とその評価・・・11

8. 環境経営計画の次年度の取り組み・・・12

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及びの結果並びに違反・訴訟当の有無・・・13

10. 代表者による全体評価、見直し結果・・・15

## 1.事業者活動の概要

### (1) 事業者及び代表者指名

株式会社新潟マテリアル  
代表取締役 工藤 敏博

### (2) 所在地

本社(新潟工場)  
〒959-0161 新潟県長岡市竹森1510  
東京事務所  
〒100-6017 東京都千代田区霞が関3-2-5

### (3) 環境管理責任者及び担当者

- ①環境管理責任者 技術課課長 高坂 和馬  
②EMS事務局 技術課主任 吉岡 久志  
③連絡先(本社新潟工場) 電話：0256-97-3791  
FAX：0256-97-3902

### (4) 事業概要

建設機械・産業機械並びに自動車部品等の各種鍛造加工品の製造及び販売

### (5) 事業規模

創業1957年 資本金1億円

活動規模	単位	2022年度	2023年同	2024年度
売上高	百万円	2,838	2,812	2,183
生産重量	t	4,374	3,834	3,141
本社新潟工場	名	36	41	31
東京事業所	名	3	3	3
敷地面積	m <sup>2</sup>	12,348	12,348	12,348
建物面積	m <sup>2</sup>	4,761	4,761	4,761

※売上高、生産量は4月～翌年3月、従業員数・敷地面積・建物面積は取組年度の4月1日時点

### (6) 対象期間

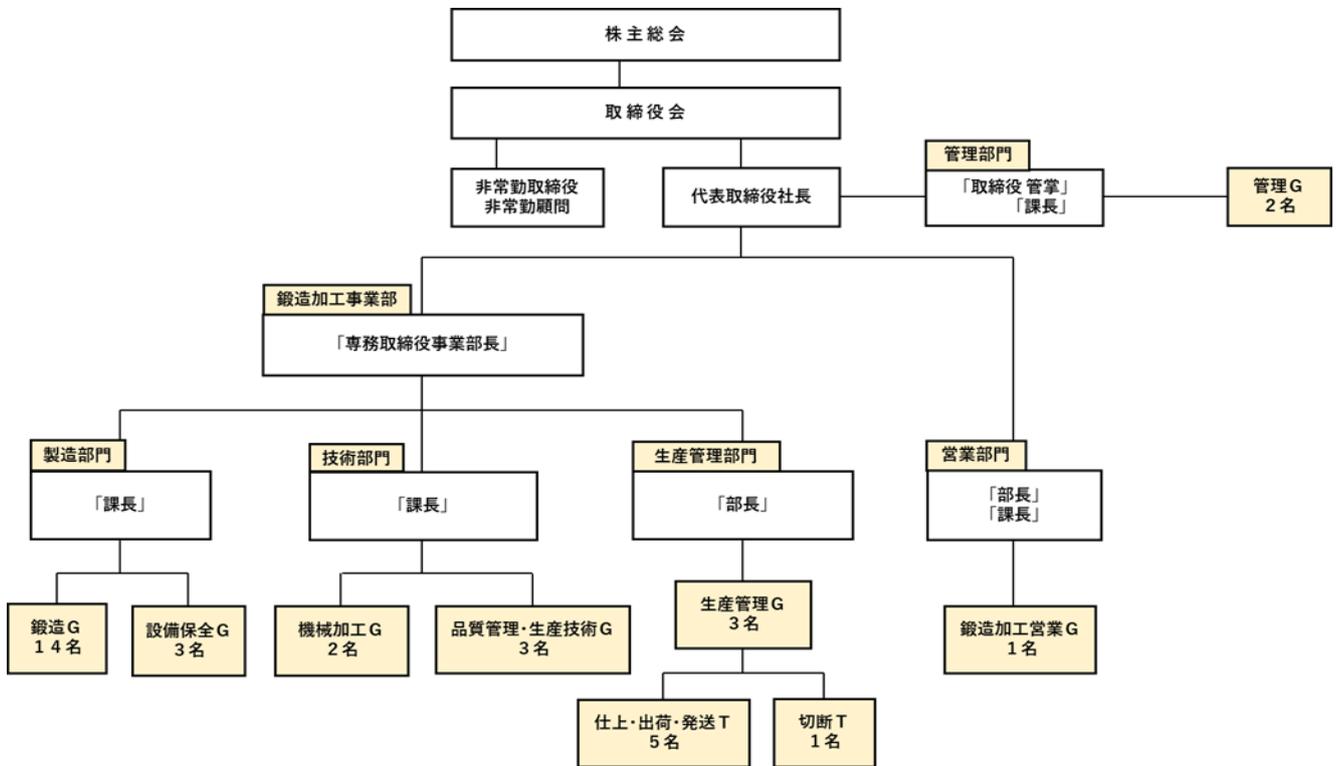
2023年4月1日～2024年3月31日

## 2.実施体制

### (1)対象事業

全組織全活動

### (2)環境経営マネジメント推進組織図



注記. 精密板金事業部は青梅単独で認証されている。

### (3) 役割と権限・責任

役職	役割と権限
代表者 (環境経営マネジメント 統括者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 代表者として環境経営全般に関して責任と権限を持つ。</li> <li>・ 環境経営方針を策定し、従業員に周知する。</li> <li>・ EMSの実施及び管理に必要な資源（人・物・金・顧客ニーズ・技術・情報）への投資の承認。</li> <li>・ EA21全体の取組状況に関し、評価・見直しを実施する。</li> <li>・ 環境経営レポートの承認</li> <li>・ 経営における課題とチャンスを確認にする。</li> <li>・ 環境管理責任者を任命する。</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EA21の要求事項を満たす環境経営システムを構築・実行し環境面の実績を向上させる。</li> <li>・ 上記の結果を社長に報告する。</li> <li>・ EA21文書類（環境経営方針を除く）の承認を行う。</li> <li>・ EMS全般の舵取りを実施する。</li> <li>・ 環境経営レポートの確認</li> <li>・ 環境委員会を開催する。</li> </ul>
環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ EA21環境経営システムを構築し、文書化し実行を推進する。</li> <li>・ 環境への取組の自己チェックを評価する。</li> <li>・ 環境管理責任者を補佐し、問題点の審議と解決策を立案する</li> </ul>
EMS事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 環境への負荷の自己チェックの取り纏め。</li> <li>・ 環境経営目標・環境改善項目の取り纏め。</li> <li>・ 環境関連法規制の遵守状況の確認及び情報収集。</li> <li>・ 環境経営目標管理表による状況の報告及び評価。</li> <li>・ 社内外の環境経営情報の収集と伝達を実施する。</li> <li>・ 環境経営レポートの作成及び外部コミュニケーションへの記録。</li> </ul>
製造部門 生産管理部門 技術営業部門	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自部門の環境経営目標、環境経営計画の達成と実績の把握を行う。</li> <li>・ 環境経営方針、自部門の環境経営目標、環境経営計画を部門内関係者に周知する。</li> <li>・ 自部門に関連する法規制等を遵守する。</li> <li>・ 自部門の教育・訓練を実施する。</li> <li>・ 社内外の環境経営情報の収集と伝達を実施する。</li> <li>・ 自部門の緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する。</li> </ul>

# 環境経営方針

## ◆基本理念

私達は「安全とコンプライアンス最優先」を基本にした職場づくりを推進する企業として、地球に優しい、人に優しい環境づくりを目指し、

**「みんなで守ろう、地球の未来、一人ひとりが主役です」**

をスローガンとして、全員参加で実現に努めます。

## ◆重点実施項目

私たちは経営における課題とチャンスをふまえ、次の項目を重点テーマとして環境経営目標・環境経営計画を定め、継続的な改善に努めます。

- ①二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出量削減のため、電力・燃料・LPGの使用量を削減する。
- ②「ゼロエミッション」を推進し、廃棄物のリサイクル化の向上と最終処分量を削減する。
- ③工場用水・生活用水の使用量を削減すると共に、排出する水質を維持管理する。
- ④地域社会との共生を図るため、関連法規制等を遵守する。
- ⑤化学物質を適正管理する。
- ⑥環境に配慮した生産活動をする。
- ⑦環境汚染の未然防止・環境美化に努め地域環境の保全に配慮した企業活動をする。

制定日 2005年10月1日

改定日 2023年4月18日

株式会社 新潟マテリアル

代表取締役社長 工藤 敏博



#### 4.環境経営目標

年度		管理値	2022年度実績		2023年度目標		2024年度目標		2025年度目標	
1	二酸化炭素排出量削減	全社	エネルギー 使用量	0.91 ton- CO2 /ton	-1%	0.90	-4%	0.86	-5%	0.05
2-1	廃棄物(総量)削減	全社	廃棄物重 量	0.184 ton/ton	-3%	0.180	-4%	0.177	-5%	0.175
2-2	廃棄物(最終処分量)削減	全社	耐火レン ガ廃棄量	0.0016 ton/ton	-19%	0.0013	-20%	0.0012	-50%	0,0008
3	水使用量削減	全社	水使用量	2.52 m <sup>3</sup> /ton	-48%	1.31	-50%	1.26	-52%	1.21
4	大気汚染・騒音振動・土壌汚染・水 質汚濁等環境法令遵守	全社	法令確認	1 回/年	100%	1	100%	1	100%	1
5	化学物質の適正管理	事務	適正管理	1 回/年	100%	1	100%	1	100%	1
6	燃料使用量の低減	現場	再生油使 用量	1.1 l/ton	-1%	1.0	-40%	0.7	-50%	0.3
7	会社内・周辺の清掃活動	全社		1 回/月	100%	1	100%	1	100%	1

注記1.購入電力の排出係数については、国が公表する電気事業者別排出係数を使用。

今回の環境経営目標は2022年度テプコカスタマーサービス(株)の0.376kg-CO2/kWhを使用した

注記2.「二酸化炭素排出量削減」、「廃棄物(総量)」、「廃棄物(最終処分量)」、

「水使用量削減」は生産量に比例するため原単位で計算している。

今回の環境経営レポートでは生産重量あたりの原単位とする。

注記3.今年度から原単位を使用鋼材重量から鍛造生産重量に変更した。

注記4.再生油使用量の低減について、再生油からLPGへ転換する活動をおこなっており、

CO2削減だけでなく作業場の美化や設備保全を目的としている。

## 5. 主な環境経営計画の取組

### (2) エネルギー使用量の削減活動

#### ① 現状把握

新潟マテリアルにおけるエネルギー使用量全体のうち、95%を「電気炉の電力」、「コンプレッサーの電力」、「重油炉の燃料」で占めている。  
これらの使用量を削減することでCO2排出量も大きく削減できる。

#### ② 活動施策

電気炉・・・鋼材径の集約 電気炉はコイル径に近い鋼材径のほうが効率がいいため  
できるだけ鋼材径を揃えて電力を抑える

コンプレッサー・・・エア漏れを修理する、不要なコンプレッサーは停止する

重油炉・・・回転炉経年劣化で熱効率が低下している。内壁を修理して熱効率を改善する

#### ③ 活動結果

二酸化炭素排出量

2022年度・・・0.84 ton-CO2/ton

2023年度・・・0.78 ton-CO2/ton(目標0.83 ton-CO2)

#### 改善の要因

稼働が落ちた際にコンプレッサーの稼働数を調整して電力消費量を削減できた。  
4tの回転炉は経年劣化が激しく、内壁を修理しても熱効率は改善されなかった。  
来年度は回転炉を更新してCO2排出量を削減する



## (2)金型寿命改善活動

### ①現状把握

金型寿命を改善することで金型廃棄量削減することができ環境負荷低減となる。  
また金型寿命改善は経営面・技術面の改善も期待できる。

### ②活動施策

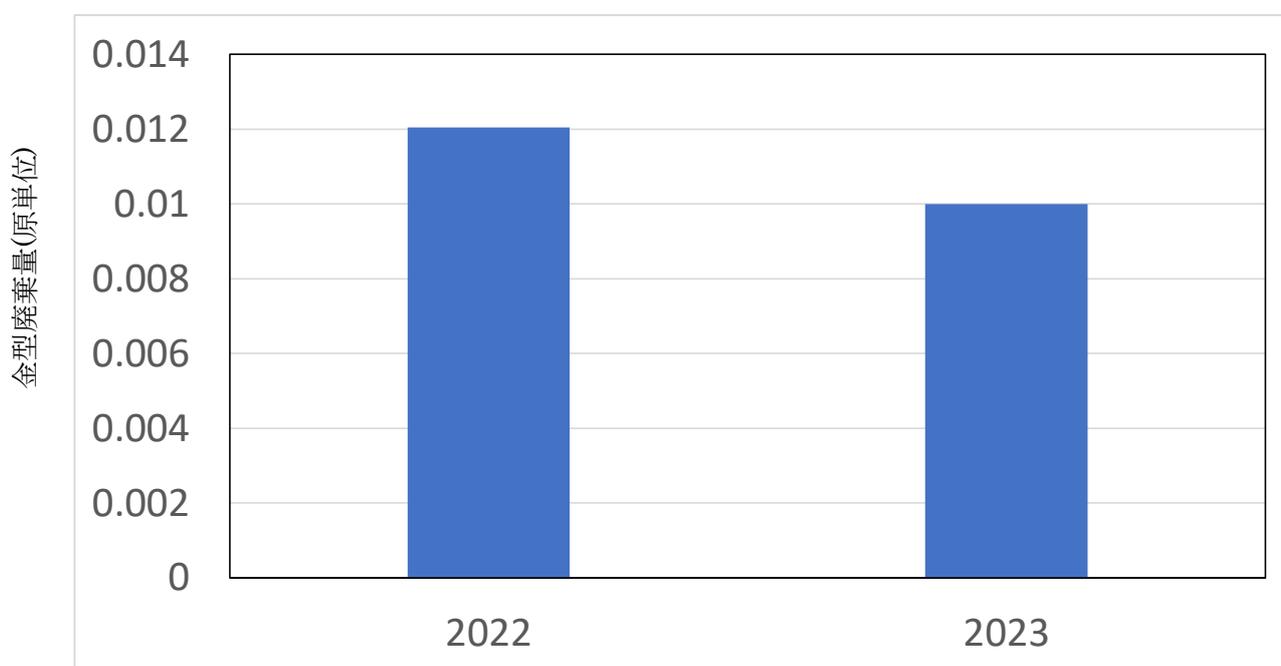
QM会議 製造課全員参加で毎月行う 製造課の中で小グループをつくり、  
多くの作業員から意見を抽出する

### ③活動結果

金型廃棄量 2022年度 0.012ton/ton  
2023年度 0.010ton/ton

金型の設計変更によって命数改善を行った。  
また、金型費用の低減して経営面も改善された。

### 【金型廃棄量の推移】



### (3)水使用量の削減

#### ①現状把握

3tクーリングタワーの水漏れがあるため水使用量が増加している

#### ②活動施策

3tクーリングタワーの水漏れを修理する

目標 0.50m<sup>2</sup>/ton

#### ③活動結果

2022年度 2.52 m<sup>2</sup>/ton

2023年度 1.72 m<sup>2</sup>/ton 目標[1.31 m<sup>2</sup>/ton)

改善の要因

クーリングタワーの水漏れを修理

他にも水道管の漏れを発見し、修理した

### (4)周辺の清掃活動



## 6.環境経営目標の2023年度実績

評価基準 ○：達成率90%以上、△：達成率80%以上、×：達成率：79%以下

No.	項目	2022年度		2023年度			
		基準	単位	目標	実績	効果	評価
0	生産量	4,374	ton	3,834		ton	
1	二酸化炭素排出量削減	0.91	ton-CO2/ton	0.90	0.78	-7.0%	○
2-1	廃棄物(総量)削減	0.184	ton/ton	0.180	0.182	-1.1%	△
2-2	廃棄物(最終処分量)削減	0.0016	ton/ton	0.0013	0.0011	-31%	○
3	水使用量削減	2.52	m <sup>3</sup> /ton	1.31	1.72	-31%	△
4	大気汚染・騒音振動・土壌汚染・水質汚濁等環境法令遵守	1	回/年	1	1	100%	○
5	化学物質の適正管理	1	回/年	1	1	100%	○
6	燃料使用量の削減	1.1	kl/ton	1.00	1.28	16.0%	△
7	会社内・周辺の清掃活動	1	回/月	1	1	100%	○

### ①二酸化炭素排出量の削減

鋼材の集約、コンプレッサー稼働の調整によって電力使用量を削減して、CO2排出量を削減した。

重油炉を修理したが熱効率の改善はできなかった。

### ②廃棄物削減

#### 2-1 廃棄物(総量)削減

金型改善を行って金型廃棄量を低減した

#### 2-2 廃棄物(最終処分量)削減

4T回転炉の修理で耐火レンガの廃棄量が増えた。

### ③水使用量削減

3tクーリングタワーの水漏れを修理して水使用量を削減した

### ④大気汚染・騒音振動・土壌汚染・水質汚濁等環境法令遵守

3月に確認した。

### ⑤化学物質の適正管理

適正に管理した。

### ⑥燃料使用量の削減

重油炉が経年劣化しており燃料使用量が増えてしまう

### ⑦会社内・周辺の清掃活動

工業廃水の汚泥とりなど毎月実施できた。

## 7.環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の取組

項目		取組結果	結果
二酸化炭素の排出量削減	設備の修理・更新を計画・実施し、生産性を向上させる	○	鋼材の集約化、コンプレッサー稼働の調整によって電力使用量を削減した。
廃棄物削減	不良鉄・金型廃棄量を削減し、廃棄量(総量)を削減する。	△	金型改善を行って金型の廃棄量を低減できたが、全体的な廃棄量が増加してしまった。
	設備保全を行って、耐火レンガの廃棄量を削減する。	○	回転炉の修理時に耐火レンガを廃棄したが、修理後は鋼管する必要がなく、廃棄量を低減できた
水使用量削減	全設備停止時の材料加熱炉冷却装置への止水の徹底	○	クーリングタワーの修理を実施して水使用量を削減した
大気汚染・騒音振動・土壌汚染・水質汚濁等環境法令遵守	法令点検の計画・実施	○	作業環境測定、ばい煙測定、敷地境界線を実施 3月に法令の遵守状況を確認し、問題なかった。
化学物質の適正管理	化学物質の適正な取り扱いの実施	○	3月に法令の使用状況を確認し、適正な取り扱いができていた。
燃料使用量の削減	燃料使用量の削減	△	4T回転炉を修理したが経年劣化により効率は改善できなかった。
会社内・周辺の清掃活動	清掃活動の計画・実施	○	毎月清掃活動を実施した。

## 8.環境経営計画の次年度の取り組み

項目	ターゲット	取組
二酸化炭素の排出量削減	CO2排出量/生産重量 0.75ton-CO2/ton	4T回転炉の更新 再生油燃料→LPG燃料への切り替え
廃棄物削減(総量)	廃棄物(総量)/生産重量 0.180ton/ton	金型設計の見直し(鋼材サイズ、彫形状)を行い、廃棄量を低減する また、QM会議を実施して不良率を低減する
廃棄物削減(最終処分量)	廃棄物(最終処分量)/生産重量 0ton/ton	4T回転炉を更新して耐火レンガの廃棄量を低減する。(更新時に廃棄されるものは含まない)
水使用量削減	水使用量/生産重量 1.26m3/ton	設備保全を行い、水漏れが起きないようにする
大気汚染・騒音振動・ 土壌汚染・ 水質汚濁等環境法令遵守	法令遵守状況の確認 1回	3月に法令遵守状況の確認を行う。また、毎月の安全衛生委員会で法令の更新状況を行う。環境測定も適時実施する。
化学物質の適正管理	化学物質のRA 化学物質使用状況の確認 1回	化学物質の使用状況をまとめて、RAや適正管理かを確認する。
環境負荷低減活動	現行の離型剤の購入量50% 減	重油系離型剤→水溶性離型剤に変更
会社内・周辺の清掃活動	清掃活動 1回/月	毎月1社員全員で会社内や会社周辺の清掃活動を行う。

## 9.主な環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反・訴訟等の有無

### (1)環境関連法規の遵守状況

環境関連法規	遵守事項	遵守状況	評価
環境基本法	環境への負荷低減		○
大気汚染防止法	ばい煙施設	ばい煙測定(2回/年)	○
フロン排出抑制法	第一種特定製品のフロン類排出量抑制	簡易点検(1回/年)	○
水質汚濁防止法	水質基準の遵守	周辺の水質調査	○
浄化槽法	定期検査の実施		○
騒音防止法	特定工場、特定施設の規制基準を遵守	環境測定(1回/年)	○
振動防止法	特定工場、特定施設の規制基準を遵守	環境測定(1回/年)	○
循環型社会形成推進法	廃棄物の抑制		○
廃棄物処理法	・ 保管基準（表示、衛生管理） ・ 許可業者に委託 ・ マニフェスト交付	廃棄物の表示 専用ファイルに保管	○
PRTR法	特定化学物質の環境負荷確認	化学物質RA	○
労働安全法	金属アーク溶接に係る作業環境管理	特殊健康診断(1回/年)	○
毒物及び劇物取締法	毒物または劇物の取扱	なし	○
省エネ法	指定工場 重油換算1,500kl以上	報告対象 計画書を提出	○
地球温暖化対策推進法	CO2排出量1,500kl以上	報告対象 計画書を提出	○
新潟県条例	新潟県環境基本条例		○

※関係各所、地域住民からの環境苦情、訴訟なし

## 10.代表者による全体評価、見直し結果(環境委員会2024年4月12日)

昨年度の下期から受注減となり今年度も同様の受注量になると予想される  
改善すべきところ改善していく必要がある

昨年度は環境経営目標8項目中6項目数値目標達成、2項目数値目標未達となった。  
2024年度は全項目達成できるよう改善活動を行っていくこと

### (1) 環境経営方針

変更なし

### (2) 環境経営目標

2023年度「環境経営目標」8項目中2項目が未達となった。

### (3) 環境経営システム

変更無し

### (4) 実施体制

実施体制については、事業活動の内容に変化がないため、現状の実施体制を維持する。